

かしわ

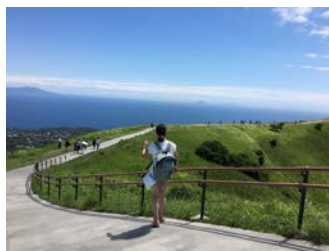
私の夏休み 2018

小学部 山藤 りか

金目鯛の「なめろう」の味が忘れられず「伊豆稲取」へ。旅館の最上階の露天風呂から大島や伊豆七島を眺めるのも楽しみ。「踊り子号」ではなく熱海から伊豆急行の普通列車に乗る。何とががう。「金目鯛のなめろう」とは味噌味の「たたき」の事。

徒歩で旅館に向かう途中に「ひなのつるし飾り」を展示してある店に寄る。柳川、酒田のものと並ぶ「日本3大吊るしびな」。娘が産まれると縁起物として願いを込めた手縫いの飾り物を作りお雛様の横に飾るという習わし。しかしその娘が成人しお嫁に行くとどんど焼きに供してしまうため現存するものが無い・・・そこで町中の蔵を探しその作り方を町を挙げて再興し3月雛祭りの時期に沢山飾って観光客の目に触れるようになったもの。赤い目をしたウサギは「邪気を払う」、桃は「延命長寿、多産」、猿っこは「厄が去る」。飾り物は全部で40種以上。この3種類の説明書と材料を購入。（「リフト21」という金目鯛色の真っ赤な電車にこの説明がある車両有り）

宿で温泉と船盛と金目鯛の姿煮と卓球を満喫し、翌日、毎春山焼きをするので山肌に木がなくグリーン草原が頂上まで続く「大室山」に。「君の名は」の舞台そのまま。三浦半島・房総半島・伊豆七島・富士山、360度見渡せる素晴らしい景色に抱かれる至福。横のジャポテン公園で「おパワ」や「スローリス」に餌をあげて触れ合い、大満足の旅であった。



No. 9 平成30年9月7日 8/28(火)の給食

私の夏休み 2018

事務主事 矢野 祥平

今年の夏休みは高校卒業からちょうど10年離れていたサッカーをもう一度行うことにしました。

早速7月に社会人のサッカークラブに加入しました。その日のうちに人手不足だったこともあり、いきなり90分の練習試合に参加しました。始めて10分も経ってないにもかかわらず、息切れしてしまい、身体が思うように動くことができませんでした。試合が終えたときは水さえあまり飲まず、しばらく倒れていました。体力には自信があったのですが、情けなかったです。

夏休みの間はもう一度体力を取り戻すため出勤前に軽いランニングをし、平日夜や週末の練習に参加しました。20代後半という遅い時期に加入しましたが、幸いにもチームに溶け込むことができました。

8月半ばから社会人リーグへの参加を正式に登録し、初めての公式戦に出場しました。その日は38度を超える猛暑でしたが、練習の成果もあり、へとへとにならず最後までプレーできました。結果として試合に勝ち、久しぶりに大きな達成感を得ることができました。



30歳になる前に、10年離れていた本気のサッカーを始めて良かったと思っています。これをきっかけに体が強くなり、週末の楽しみが一つ増えました。目標は40歳まで現役でいようと思っています。皆様もやり残したこと、やりたかったことにもう一度トライしてみてもいいのではないでしょうか？

私の夏休み 2018

小学部 富山 馨太

今年の夏休みは勉強と我慢のヶ月でした。7月の下旬は、大学での講習を受けてきました。大学生時代と同じ時間帯、同じ電車、同じような経路で通ったので懐かしさを感じながら東京にある大学へと向かいました。その大学は初めて行く大学でしたので、初日は周りの町並みを見て回ったり、講習の時間が来るまで近くの公園でベンチに腰を下ろしてそこから見える風景を楽しんだりしていました。都会の風景は新鮮で良いですね。地元にはないような建物や地形を見るのは、楽しいです。自分の家が駅



から結構遠い場所にあるので、「こういう電車も近くて活気のある所に住んでみたいなあ」などとも思っていました。大学での講習は、短い時間でしたが必要なことを沢山知れたので良かったです。

8月は、ピアノや今後のための勉強をしていました。時々友人と一緒に会って好きなことを話したり、ドライブに行ったりし、勉強の疲れを癒やしていました。また、8月は少し食べ物の我慢もしていました。去年と比べると体重が増えていたので「これはまずい」と思い、外食はなるべくしないようにしていました。おかげで8月下旬現在は少し落とすことに成功しましたが、油断するとまた増えそうなのでこれからも続けようと思います。

8/20(月)難聴理解研修会の様子

校長 北村 耕一

8月20日(月)本校が地域の聴覚障害教育に関する外的機能として毎年主催している「難聴理解研修会」を横須賀市教育研究所をお借りして開催しました。

この事業は本校の地域支援の二大事業の一つで、本校の教職員のろう教育の専門性につながる内容であると同時に、本校にある「ことばときこえの教室」に通

ってくる市内小中学校に在籍している難聴の児童生徒の指導に日常関わっている小中学校の教職員の指導支援を目的としています。

今年度は、市内野比にある独立行政法人国立特別支援教育総合研究所の総括研究員である山本 晃 先生に講演



を依頼しました。講演の題は「難聴児童・生徒の言語能力の実態と支援の具体的方法」でした。山本先生ご自身の30年以上のろう学校での指導経験に基づき、学習指導要領に記されている教育の根幹的課題である「豊かな日本語を育てること」「豊かな感性を育てること」を根底においたお話でした。

私にとって印象深かったのは、「従来から言われてきた『9歳の壁』に代表されるような教科学習の伸び悩みは、未だ解決されているとは言えない。しかし、私は、聾学校の先輩教師から、『子どもたちの可能性を追求し、子どもに力をつけていく姿勢を絶えず持つことを忘れてはいけぬ』『子どもができないことを、子どものせいにはしない』と教わりました」という話でした。このことは、ろう学校に限らず、全ての学校において大切な教職員の心得ではないでしょうか。



限られた時間の中での山本先生のご講演でしたが、参加された先生方にとっては、これからの指導支援において参考になることが多かったと思います。本校においても今後の日々の実践で生かし、子どもにとって「楽しくわかる」授業を作り上げていきたいと思